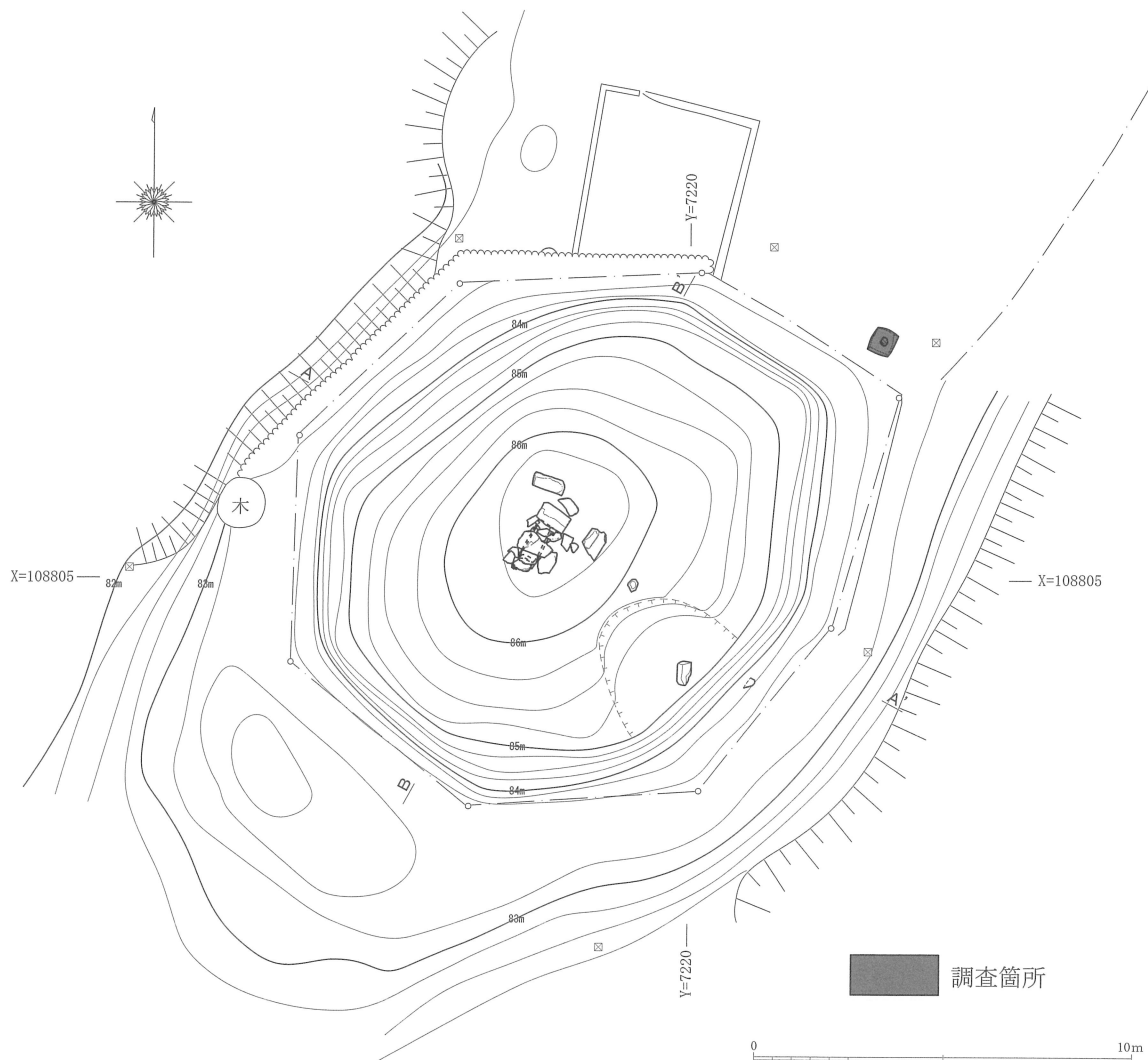


妻鳥陵墓参考地駒形制札改修工事に伴う立会調査

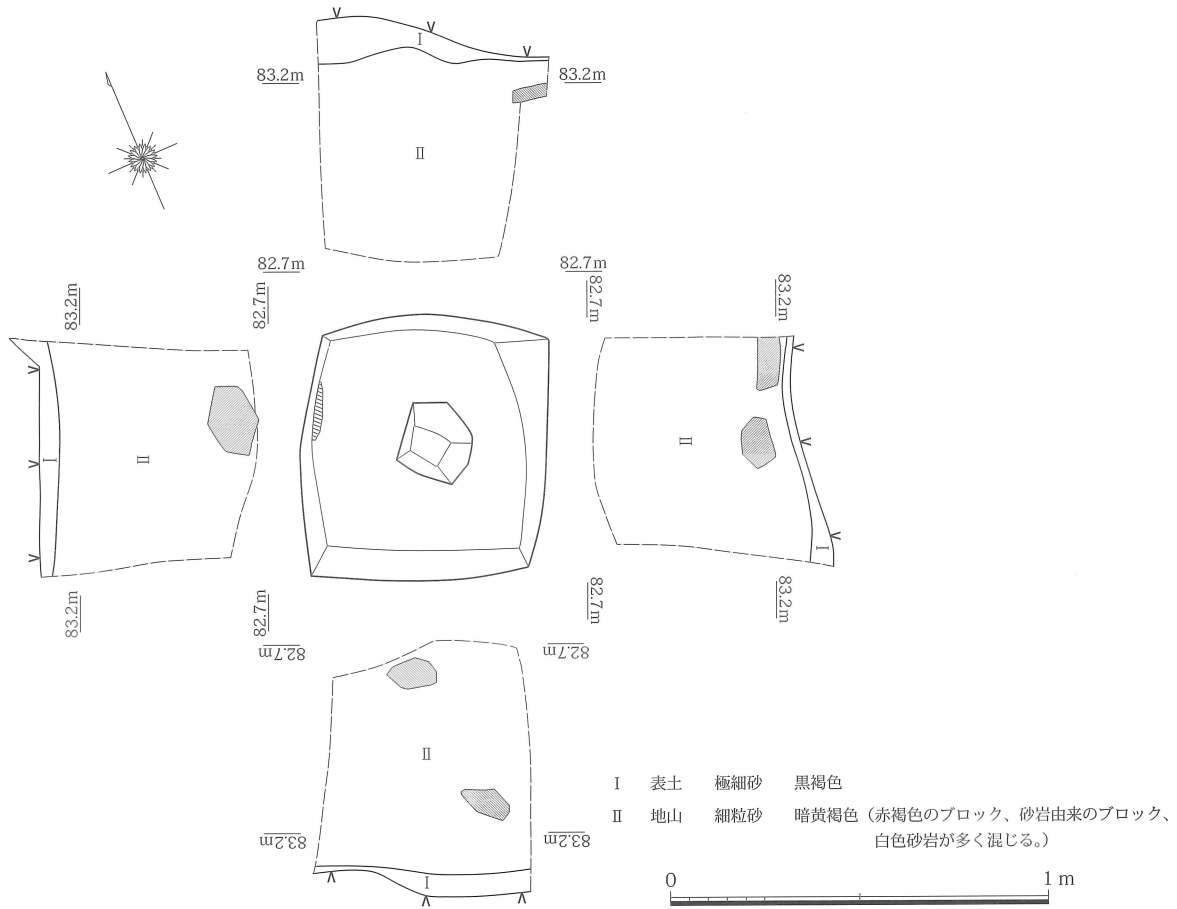
妻鳥陵墓参考地は、愛媛県四国中央市妻鳥町に所在する。現状では墳長 14.6 m の円形の墳丘部分が陵墓参考地として治定されているが、本来は北東側に前方部が広がる前方後円墳であった可能性がある⁽¹⁾。駒形制札の経年による傷みが著しいため、このたび改修することとなった。駒形制札は墳丘北東側の平坦面に設置されている（第 57 図）。駒形制札改修にともない、基礎を設けるために制札の脚下を掘削する必要があるが、先述したとおり、墳丘北東側は現在は削平されているものの、本来は前方部が広がっていた可能性があるため、令和 2 年 3 月 16 日～18 にかけて立会調査をおこなった。調査は土屋隆史が担当し、安岡徹悦、玉野裕弥が補助した。ここでは、掘削箇所の報告をおこなう。

なお、今回の報告で使用する座標は、I T R F（国際地球基準座標系）にもとづいた世界測地系の平面直角座標第 IV 系をもちいており、図面において使用している方位記号の方角は基本的に座標北である。また、高さの基準には東京湾平均海面（T.P.）をもちいた。

当参考地は、明治 27 年（1894）3 月 20 日、21 日に墳丘内の横穴式石室から埋蔵物が発見されたことが報告され、明治 28 年（1895）12 月 3 日付で陵墓参考地として治定された⁽²⁾。当参考地には長らく石室に開口部分があったが、これを閉鎖するにあたって昭和 34 年（1959）3 月、三木文雄に現状調査が依頼された。『書陵部紀要』第 23 号で横穴式石室と出土遺物の報告と考察がなされている⁽³⁾。また、平成 25 年 7 月 1 日～7



第 57 図 妻鳥陵墓参考地 調査箇所位置図（1/200）



第 58 図 妻鳥陵墓参考地 トレンチ平面図および断面図 (1/20)

日にかけて墳丘外形調査、関連史料調査をおこない、既報の当参考地出土品についても新たに実測、撮影したうえで、その知見を報告した⁽⁴⁾。

駒形制札の改修にともない、墳丘北東側をおよそ長さ 0.6m × 幅 0.6m × 深さ 0.6 m の範囲で掘削した（第 58 図、図版 29）。表土（Ⅰ）下の、標高 83.25m 付近からは、暗黄褐色で赤褐色のブロック、砂岩由来のブロック、白色砂岩が多く混じる土層（Ⅱ）が検出された。当参考地が位置する独立丘陵（春宮山）に由来する層位であり、地山である可能性が高いと考える。前方部の墳丘盛土と考えられる土層、葺石、遺物などは確認されず、前方部の有無を検証できるような材料を得ることはできなかった。

以上、掘削範囲から墳丘盛土や遺構は確認されず、遺構の出土はみられなかった。そのため、改修工事は予定通り施工した。（土屋隆史）



1 調査前全景（北から）



2 調査後全景（北から）



3 トレンチ平面図（上面から）



4 北側土層図（南から）



5 東側土層図（西から）



6 西側土層図（東から）



7 南側土層図（北から）



8 新制札設置後全景（北から）